

■ アンケート詳細

トピック①

◇7割以上の高1生がすでに何らかの英語資格・検定試験を受けており、そのうち8割は「英検」を受けている

「これまでに、英語資格・検定試験を受検したことがありますか？」という質問をしたところ、74.6%の生徒が「ある」と回答しており、高1生の時点ですでに多くの生徒が何らかの英語資格・検定試験を受検したことがあるとわかりました [図1]。また、英語資格・検定試験を受検したことが「ある」と回答した生徒の中で80.4%が「英検」を受検していると回答しています [図2]。

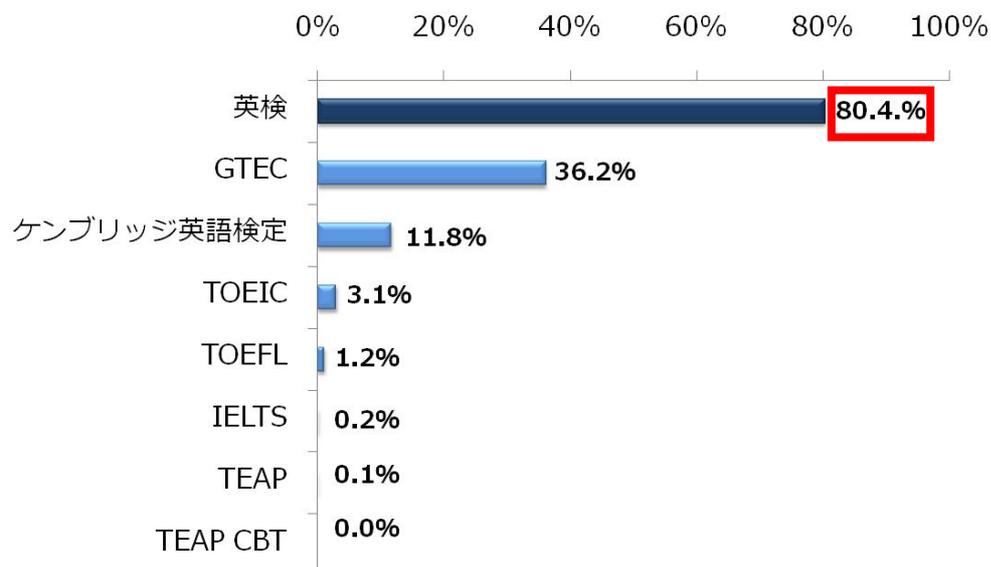
Q.1 これまでに、英語資格・検定試験を受検したことがありますか？

[図1]



Q.2 「ある」の場合、受検したのはどの試験ですか？（複数回答可）

[図2]



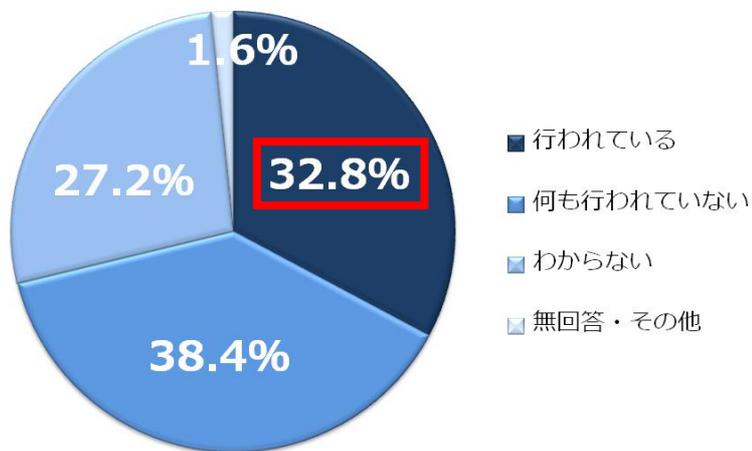
トピック②

◇現状、学校も生徒も「英検」「GTEC」が中心の対策になっており、その他の資格・検定試験に対する指導・アドバイスを受けたことがある生徒はほとんどいない

「通っている学校で、英語資格・検定試験についての受検対策指導は行われていますか？」という質問をしたところ、32.8%の生徒が「行われている」と回答し [図3]、その中で最も指導されている資格・検定試験は「英検」であり、次点で「GTEC」が挙がっています。しかしながら、その他の資格・検定試験に関してはほぼ指導がされておらず [図4]、半数以上の生徒が大学入学共通テストで活用したい英語資格・検定にも「英検」を選んでいきます [図5]。

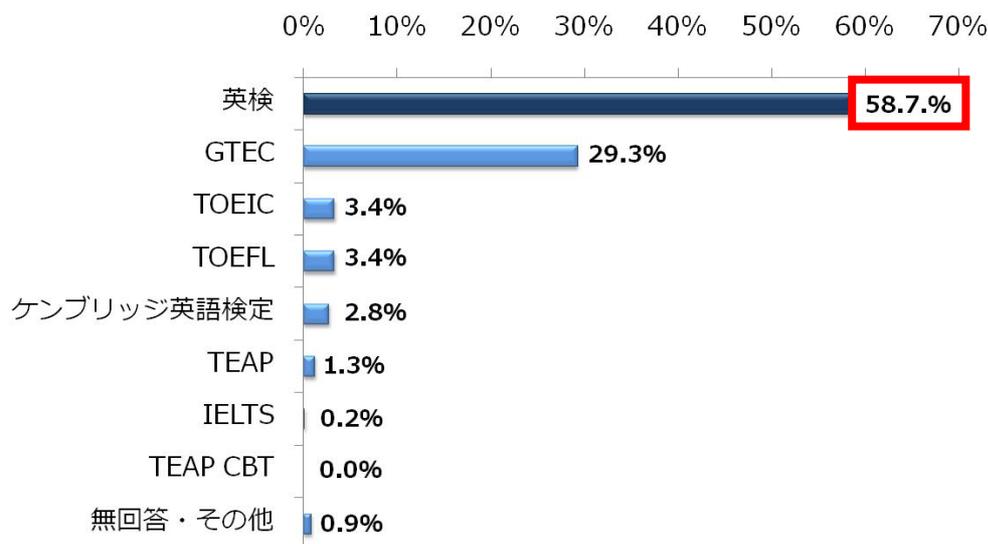
Q.3 通っている学校で、英語資格・検定試験についての受検対策指導は行われていますか？

[図3]



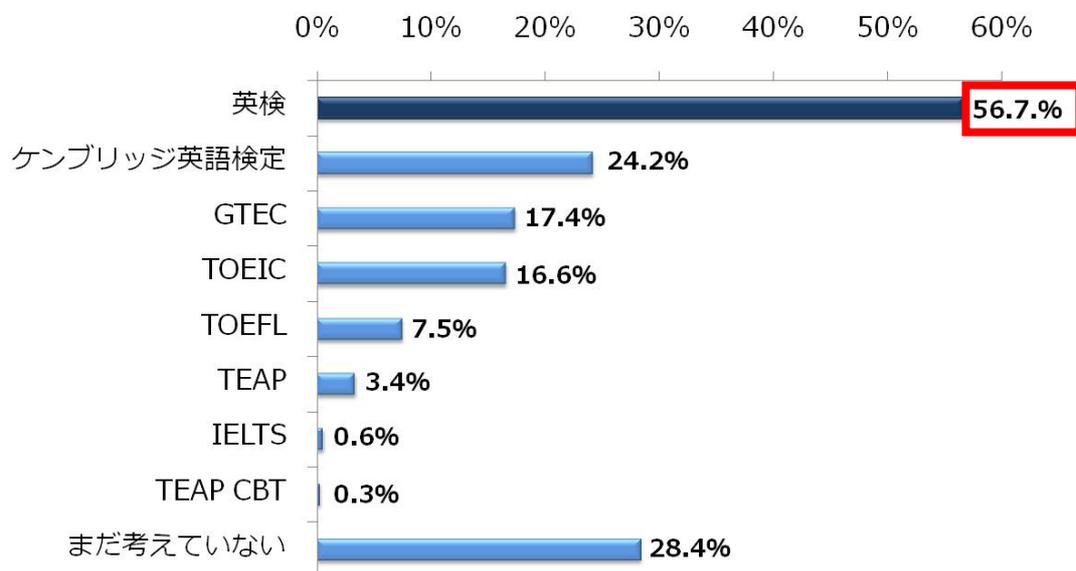
Q.4 「行われている」の場合、資格・検定試験名を教えてください。(複数回答可)

[図4]



Q.5 2020年度から始まる「大学入学共通テスト」では、英語資格・検定試験の結果を活用することが発表されています。皆さんが結果を利用したいと考えているのは、どの資格・検定試験ですか？
(複数回答可)

[図5]



トピック③

◇生徒がいま、最も教えてほしいことは「どのような資格・検定試験を受ければいいのか」

一方で、このような状況に対して大きな危機感を持っている生徒も多いことがわかりました。自由回答で『「教えてほしいこと」「知りたいこと」があれば何でもお書きください。』という質問に対しては、「どのような資格・検定試験を受ければいいのか」という内容が単体の回答で最も多い結果となりました。また、その他にも「それぞれの検定の違い」や「どの検定を受けるのが大学受験に有利なのか」といった回答も多く見受けられました。

Q.6 英語資格・検定試験に関して「教えてほしいこと」「知りたいこと」があれば、何でもお書きください。(自由回答)

■生徒の回答(一部)

- ・ **どのような資格、検定試験を受ければいいのか (119件)**
- ・ 大学受験で有利な資格・検定を知りたい (26件)
- ・ それぞれの資格、検定のどのような問題が出るのか知りたいです (18件)
- ・ それぞれの資格、検定の特徴や難易度などを教えてほしい (11件)

…etc.

＜河合塾からのメッセージ＞

多くの高1生がすでに英語の資格・検定試験を受検している一方で、「選び方がわからない」「有利なものを知りたい」など、不安に感じている生徒が多いことがわかりました。

資格・検定試験の入試活用と聞くと、特別なことが求められるようにも感じますが、学校や塾で現在学習していることは必ず生かせるので、不安になりすぎずに毎日の学習に取り組んでいただきたいと思います。

なお、新入試に採用された資格・検定試験は8つあり、試験の特徴（次頁参照）、日程・会場などを確認して、高校の先生等にも相談して決めるとよいでしょう。資格・検定試験は高3の4月～12月までに2回受検し、その受検結果が入試に活用されます。現在の高3の1月に行われるセンター試験よりも時期が早まります。

- ・高1・2生のうちは、「資格・検定試験のために学ぶ」よりも「資格・検定試験を活用して学ぶ」というスタンスで、自らの英語の力を定期的に測りながら、力を伸ばしていくと良いでしょう。
- ・高3になれば、他教科の成績や学習の進捗状況にもよりますが、高3の6月頃までに1回目、10月～12月に2回目を受けるというスケジュールで受検いただくことが目安になると思います。

河合塾が導入している「ケンブリッジ英語検定」は、日本の学習指導要領と親和性が高く、また、文部科学省が採用しているCEFRに完全準拠しているので、自身の英語力を測る「ものさし」として、学習の進捗確認にも活用できる試験です。ぜひご活用ください。

各大学における英語の資格・検定試験の入試活用など、新しい入試情報は、今後随時発表されていきます。アンテナを張って、情報を取り入れていきましょう。

【新入試 Navi】 英語4技能の勉強法&資格・検定試験対策

<https://www.kawai-juku.ac.jp/exam-info/cnt/exam-correct/4skills/>

【参考資料】

英語資格・検定試験の特徴一覧

実用英語技能検定
認知度が高く、定着率も高い。語彙（ごい）に比重がおかれているが、学習指導要領との整合性が高く、受検しやすい。 2級と準1級のレベルに開きがある。
GTEC
さまざまな英語試験の特徴が集約されたようなバランスの良さがある。問題ごとに時間制限があるので、時間配分の訓練が必要。
ケンブリッジ英語検定
実生活を想定した問題が多く、写真やイラストも豊富で、ペア型スピーキング試験も特徴の1つ。 日常生活でいかに英語を活用できるかが問われる。国際指標であるCEFRの段階別評価に完全準拠して作成され、CEFRの全レベルに対応しており、大学入試改革がめざそうとしている方向との親和性が高い。
TOEIC
ビジネス英語が基本で、文章量が多く、短時間で長文を読む力と語彙力が試される。 アメリカ以外の英語に慣れるためのトレーニングになる。
TOEFL
難易度が高い。大学の教養科目に関連した出題も多く、大学入学後に海外留学を考えている人は、その準備としても活用できる。
IELTS
アカデミックな英語運用能力を問われる。高得点が取れば、海外の大学進学も視野に入れられるほど難易度が高い。
TEAP
CEFRとの整合性が高いので、自分がどの位置にいるのかわかりやすい。今後、大学の一般入試でも、TEAPと似た傾向の問題が出題される可能性が高い。